

キリスト教教育委員会のHP(<http://rakuno-ce.org>)にアクセスして事前に聖書や讃美歌の確認をしましょう。

「見よ、全地に生える、種を持つ草と種を持つ実をつける木を、すべてあなたたちに与えよう。それがあなたたちの食べ物となる。<sup>30</sup> 地の獣、空の鳥、地を這うものなど、すべて命あるものにはあらゆる青草を食べさせよう。」

そのようになった。<sup>31</sup> 神はお造りになったすべてのものを御覧になった。見よ、それは極めて良かった。夕べがあり、朝があった。第六の日である。

### 【「支配」と「責任」】

本日の聖書箇所では神が、人間に対して動物を「支配せよ」と命じています。「支配」というと何か独裁者が恣意的に対象を弄ぶような感じを受けるかもしれませんが。確かにキリスト教の歴史においては、そのように解釈して自然破壊や動物虐待を行なった人たちが存在しました。しかし、それはこの箇所の正しい解釈とはいえません。神は、「極めてよい」世界を創造して、その維持管理を人間に任せたのです。つまり「支配」の「責任」を与えたのです。神に委任されている人間には世界に対しての「善良なる管理者の義務」が生じます。「善良なる管理者の義務」とは、他者から預かったものを、自分のものと同等以上に大切に扱う義務のことです。なぜなら自然は神から人間に委ねられているのであって、人間の所有物ではないからです（物語上人間も動物も神に造られています）。

さらに進んで、人間の直接的支配下にある動物（生産動物・伴侶動物・展示動物・実験動物など）について考えると、当該動物の生殺与奪の力は100%人間が握っています。その場合、動物の環境を整えるのは当然人間の責任です。聖書の物語が語るのは、好き勝手な人間の動物支配ではなく、良き管理者としての動物に対する責任であるといえます。「支配」は「責任」とセットになっているのです。（Y.T.）

### 【聖歌隊で一緒に歌いましょう】

後学期にはクリスマス礼拝に向けてコーラスの練習もはじまります。毎週礼拝前後にオルガン前で練習していますのでご参加ください。

### 【次回の大学礼拝】2018年10月16日（火）10時40分

元とわの森三愛高等学校校長・野幌教会会員の村山昭二先生が奨励を担当していただきます。テーマは「キリスト者黒澤酉蔵」です。

### 【前回の大学礼拝】

学生 269名 教職員ほか 7名 合計 276名

## 【大学礼拝週報】2018年度 第18号（後学期第3号）

2018年10月9日（火）午前10時40分

酪農学園大学 黒澤記念講堂

### 《大学礼拝》

司 式 高橋優子（キリスト教学教員）  
奏 楽 佐藤理恵（野幌教会会員）  
讃美指導 相原晴伴（循環農学類教員）

前 奏 「主をほめたたえよ」（アーベル作曲）  
讃美歌 讃美歌 354 番（かいぬしわが主よ）  
聖 書 創世記 1 章 24-31 節  
祈 り  
さんび 酪農学園大学聖歌隊  
奨 励 「動物の環境を整える」  
及川伸（獣医学群長）  
報 告  
讃美歌 酪農讃歌  
後 奏 「明るき太陽は今や輝きあらわる」（ブロート作曲）

### 【本日の聖書】創世記 1 章 24-31 節

<sup>24</sup> 神は言われた。  
「地は、それぞれの生き物を産み出せ。家畜、這うもの、地の獣をそれぞれに産み出せ。」

そのようになった。<sup>25</sup> 神はそれぞれの地の獣、それぞれの家畜、それぞれの土を這うものを造られた。神はこれを見て、良しとされた。<sup>26</sup> 神は、言われた。

「我々にかたどり、我々に似せて、人を造ろう。そして海の魚、空の鳥、家畜、地の獣、地を這うものすべてを支配させよう。」

<sup>27</sup> 神は御自分にかたどって人を創造された。

神にかたどって創造された。

男と女に創造された。

<sup>28</sup> 神は彼らを祝福して言われた。

「産めよ、増えよ、地に満ちて地を従わせよ。海の魚、空の鳥、地の上を這う生き物をすべて支配せよ。」

<sup>29</sup> 神は言われた。